

「中央締結ブレーキディスク」って何？ 何のために導入するの？安全性は？

ディスクボルトの折損、ディスクの亀裂対策…?!

新幹線の車両所では「N700系中央締結ブレーキディスクの先行搭載に伴う取り扱い」と題した連絡文書が発行されています。

内容は、全般検査を出場する4編成のうち一部の車両に「中央締結ブレーキディスク」なるものを搭載し、現行のブレーキディスクとの取り扱いの相違点を記載したもので、目的は「性能確認のため」とだけ記されていました。

現行のブレーキディスクは車輪のボス付近でボルトによって締結されていますが、連絡文書にある写真によれば、「中央締結ブレーキディスク」ではディスクの摺動面に穴を開け、車輪の中央部でボルトにより締結されているようです。これは、新幹線開業以来の大きな構造変更といえます。

しかし会社は、このような大きな構造変更にもかかわらず、現場で車両の検修にあたる社員には何の説明もせず、文書ひとつですまそうとしています。労働組合にも一切説明はありません。

この文書を見た現場の社員は「中央締結ブレーキディスク」とは何なのか？何のために導入するのか？「性能確認のため」といっても何のために「性能確認」を行うのか？安全は確保されているのか？など多くの疑問を持っています。

この間、新幹線電車のディスクボルトの折損や、ディスクの亀裂が多数発生しています。JR東海労では、これらについて「徹底的な原因究明と抜本的な対策」を会社に求めてきましたが、未だ解決には至っていません。

今回導入される「中央締結ブレーキディスク」について、会社は現場の社員に説明するとともに、労働組合とも協議の場を設けるべきです。